

大雨に備える農作物の技術対策

日本気象協会によりますと、9月3日（木）11時現在、台風により活発化した秋雨前線が4日（金）から5日（土）にかけて本州の南岸付近に停滞見込みです。京都府では5日までの間に警報級の大雨となる恐れがあります。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に十分注意してください。

気象情報に注意して警戒するとともに、以下を参考に農作物への十分な対策を講じてください。
ただし、人命第一の観点から、ほ場周辺の安全に十分注意し、作業をお願いします。

1 水稲

【事後対策】

- ①倒伏した稲は収穫までに日数がある場合、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。
- ②滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。ただし、浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで、高水分となっているので、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。

2 豆類

【事後対策】

- ①大豆・小豆では、莢が地面に接していると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。
- ②浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

【事後対策】

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③大雨による多湿が続くと病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。

4 果樹

【事後対策】

- ①冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

【事後対策】

- ①病害が発生しやすいので、秋製造を行わない茶園では適用のある農薬を確認の上、薬剤による防除を徹底する。